

上田毅八郎追悼展

1920-2016



上田毅八郎追悼展

2016年6月18日に他界されました上田毅八郎氏を偲んで
想い出を共有する方々でご遺族とで偲ぶ会と追悼作品展を企画する運びとなりました。

上田毅八郎氏（プロフィール）



1920年（大正9年）8月30日、静岡県藤枝市生まれ。小さい頃から絵が好きで、特に乗り物が好きでよくスケッチをしていた。父親の職業を継いでペンキ職人として5年間ほど、全国各地の建築現場で塗装の仕事をやる。20歳の時に召集され、陸軍船舶高射砲第一連隊に配属となる。船舶砲兵として26隻の船に乗り、南方、北方の海を航海。航海中にも軍艦のスケッチなどを隠れて描く。兵役3年8ヶ月の間に6回撃沈され、命だけは助かったが、利き腕の右手の自由を失う。

戦後、塗装業の傍ら、「戦争で共に戦って戦死した多くの戦友達の魂を慰めるとともに、思い出を描き留めることが使命」と、本格的に船舶のイラストを制作。田宮模型(現株式会社タミヤ)の田宮社長(現会長)との運命的な出会いがあり、模型の箱絵の制作を始める。1970年頃からは画業に専念。1971年頃から代表作のひとつとなった、ウォーターラインシリーズの箱絵を制作。

見る者を絵の中に引き込むほどの、緻密で迫力のある画風は、船舶海洋画家の第一人者として、約6000点の作品を制作した。2016年6月18日惜しまれつつもこの世を去る。(享年97歳)

追悼展について

上田毅八郎氏は1971年頃より代表作となったウォーターラインシリーズの箱絵の多くを手掛け、軍艦や航空機など模型の箱絵を通じて、多くのファンに愛された画家です。乗り物、特に「メカニック」を表現する力に優れ一度図面を見ただけで立体の完成時の姿を見事に描写できる力があり。メカニカルな描画のみならず背景描写の才能にも優れ、様々な海の波を描き分けることから「七つの海を描く男」としても有名でした。この度、上田毅八郎氏の追悼展を主催いたしました「静岡模型教材協同組合」各社が上田氏との仕事の中で発注し商品化した梱包箱（パッケージ）をはじめ、各社が所有するボックスアートとよばれる「原画」を展示するとともに、ご家族や友人など交遊関係のある方々が持ち寄りました品々も展示させていただきます。普段外部に公開されない作品などを通して、短期間ではございますが、皆様にご覧いただきながら上田毅八郎氏の功績に想いを馳せ、偲んでいただける追悼展となりましたら幸いです。

SHIZUOKA HOBBY SQUARE
静岡ホビースクエア

2016.10.1 SAT ~ 9 SUN

会場：静岡ホビースクエア（入場料 500 円：中学生以下無料）
住所：静岡市駿河区南町 18-1 サウスポット静岡 3F (JR 静岡駅南口より徒歩 1 分)
開館時間 / 11:00~18:00 (平日)、10:00~18:00 (土日祝)
主催：静岡模型教材協同組合
※偲ぶ会：10月1日(土曜日) 13:00~14:00 (主催：上田家)

※10/3(月)は休館日

